

「ICT活用の課題とその解決策について」(第4回資料1)に対する各構成員からの意見と対応案の整理

原 案	修正案	意見要旨
<p>3 (2) サービス利用等の各場面での ICT の活用</p>		
<p>より具体的に、サービス利用申請、相談からサービスの利用、関係者との情報共有、サービス提供者の行政との手続きの各段階で ICT の活用場面を例示したものが(資料 9)である。</p>	<p>既に実用段階のものがあるが ICT 技術が進歩した将来の姿として、より具体的に、サービス利用申請、相談からサービスの利用、関係者との情報共有、サービス提供者の行政との手続きの各段階で ICT の活用場面を例示したものが資料 9 である。</p>	<p>・資料 9 は理想形での取組みであり、ICT の導入・取組みのハードルを下げる記述を加えてはどうか。</p>
<p>～スマートフォン等の活用によりサービス利用者等の状況の共有情報共有の効率化が図られ、ひいては、サービスの質の向上が図られるといった ICT 活用の効果が期待できる。</p>	<p>また、スマートフォン、ウェアラブル端末等の既存技術の活用によりサービス利用者等の状況の共有や情報共有の効率化が図られるといった効果が期待でき、ひいては、アセスメントの効率化、サービスの質の向上、アウトカム重視のサービス提供の推進といった ICT 活用の効果が期待できる。</p>	<p>・ICT の導入はアセスメントの効率化やサービスの質の向上などの効果を生み、利用者の要介護度の軽減のほか、アウトカム重視のサービスの推進につながる面もある。</p>
<p>4 ICT 活用の基本的考え方</p>		
<p>～地域における情報基盤の整備、情報セキュリティの確保、必要な財源の確保が不可欠であることは言うまでもないが、併せて、次の点が重要である。</p>	<p>～地域における情報基盤の整備、情報セキュリティの確保、必要な財源の確保が不可欠であることは言うまでもないが、これらに併せて、3 で示した将来の地域包括ケアシステムを構築していくためには、次に掲げる基本的な考え方をもとに、先端技術だけでなく、既存の技術の利用、応用により身近なところから着実に ICT 活用の取組みを進めていくことが重要である。</p>	<p>・最先端技術だけでなく、既存の技術の利用・応用により身近なところから ICT の取組を進めることが必要。</p>

<p>(2) マネジメント</p>		
<p>ICTの統合的な導入、活用のためには、それをマネジメントできるだけの人材や機能を施設、地域に配置・整備する必要がある。</p>	<p>ICTの統合的な導入、活用のためには、それをマネジメントできるだけの人材教育を行うなどして介護施設等や地域に配置・整備する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに人材も持ってくることは難しいため、今、地域・施設等にいる人材を育成することも重要。
<p>(4) 既存技術の活用</p>		
<p>地域においてICTの活用を普及させていくためには、最先端の技術の活用だけでなく、既に普及している技術の標準化を図るとともに、地域の実情に応じて利用、応用していくことが必要である。</p>	<p>地域においてICTの活用を普及させていくためには、最先端の技術の活用だけでなく、既に普及している技術の利用や標準化を図るとともに、地域の実情に応じて本来の利用効果に限らず複合的な効果を勘案しながら利用、応用していくことが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族、施設職員等がICTを利用しやすい仕組みをどう作っていくのか。 ・ICT導入による効果が複合的に波及することを考慮することが必要。
<p>5 (1) マネジメント人材の育成</p>		
<p>解決策：ICT導入のためのガイドラインの作成、普及 人材育成のための研修 外部機関の活用</p>	<p>解決策：ICT導入を円滑に進めるための手法の普及 既存の施設管理者研修などにICTマネジメントに関する内容を追加 社会福祉協議会などの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドライン作成が目的となり、人材育成につながることも、具体的な方法等をイメージできる記載としてはどうか。 ・新たに研修を立てるのではなく、既存のあらゆる階層・場面での研修の中にICTに関することを盛り込んでいくべきではないか。
<p>(2) ICTに関する情報の普及、情報格差</p>		
<p>解決策：ICT・介護ロボットに関する情報発信の充実（情報サイトの整備など） ICT・介護ロボット普及のための人材（コーディネーター）育成 情報格差をなくすための教育・相談体制の充実</p>	<p>解決策：ICT・介護ロボットに関する情報発信（機器・技術・導入事例等）の充実（情報サイトの整備など） ICT・介護ロボット普及のための人材（コーディネーター）育成 情報格差をなくすための教育・相談体制の充実 社会福祉協議会などの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関はどこを想定しているのか。 ・普通の人たちが知るきっかけを増やし、身近なものを使おうとすることが重要。 ・利用者だけでなく、家族や周囲の支援者の知識向上も必要。

<p>(3) 既存技術の活用</p>		
<p>解決策：既存技術を活用できる人材の育成</p>	<p>解決策：既存技術の応用事例に関する情報の普及</p>	<p>・人材育成のみではなく、身近にある技術の活用方法や活用事例の情報提供が重要。</p>
<p>(4) 費用負担</p>		
<p>解決策：介護保険による対応（介護報酬における ICT・介護ロボット利用の位置づけの明確化）</p>	<p>解決策：介護保険による対応（介護報酬における ソフトウェア利用を含めた ICT・介護ロボット利用の位置づけの明確化） ICT・介護ロボット利用促進に関する通信会社等の民間サービスとの協同（高齢者遠隔見守りサービスなど）</p>	<p>・ICT はハード機器だけでなくソフトウェアで提供されたものもある。また、これら費用をどう考えるか。 ・民間サービスで高齢者の見守りサービスも行われており、今後は例えば通信会社が提供するサービスと協同することも考えられる。</p>